



この週末

地歴科のY野先生（22R担任、女バレ顧問、日比谷卒業生）から、「今日（19日）の朝、先生のクラスの生徒が、教室だけでなく廊下も掃除してましたよ。イイ生徒ですね、礼を言っておきました」と話しかけられた。地歴科は13Rの前だから気づかれたのだろう。

体育大会の後、私は得点板の係なので、その片付けをして教室に戻ってみると、数名の男子がいた。そこで、明日の朝登校したら、声をかけあって掃除をしておくように依頼したのである。その場に●●くんもいて、登校したあと、早速掃除をしてくれたようだ。何人か手伝ってくれた人もいるのだろうか。

*

日比谷の先生方は、いろいろな場面で君たちのことをしっかり見ていてくれているのである。そして、それを担任に伝えてくれる。もちろん、カーテン色のベストを着ていれば、それもちゃんと見ているに違いない（笑）。

よく君たちは、「外見（みかけ）で判断しないでほしい」という。その気持ちは分からないではないが、では判断しなければならない時に、何で判断すればよいのだろうか。「私の内面、本当の姿を見てください」ということなのだろうか？ しかし、内面（本当の姿）など、人に見られたいものだろうか（ましてや、学校の先生に…）。そして、内面で判断するということは、かえって主観的な結果を招くことにならないだろうか。

こう考えると、例えば学校で何か判断が必要になった時に、服装であるとか、髪型であるとか、遅刻の回数であるとか、成績であるとか、そういう外見（みかけ）で判断することにも、一定の合理的な根拠があることにな

るのではないだろうか。遅刻ばかりする人は、社会に出てもやはり信頼されないだろうし、式典の際、それにふさわしい服装ができていなければ、同じように社会人としては失格だろう。

もちろん、我々は「それだけではない」ように努めている。例えば、体育祭の時にも、走っている選手だけでなく、応援席のみんなの様子も見ているし、係としての仕事をこなしている姿も見ています。そういう「外見」からうかがわれる、君たちの内面に迫ろうとしているのである（ただ、全員の内面に迫るのはなかなか難しいのが現実だ…）

*

まもなく最初の中間考査が始まるが、そこは「成績」という数字で君たちが判断される厳しい世界でもある。今まで通りの勉強で通用するとは、誰も思っていないに違いない。中学校の時、試験一週間前から準備していた人は、授業のスピードや難易度を考えると、同じように一週間前から準備したのでは、到底間に合わなそうなことは想像に難くないはずだ。

とすると、実は明日・明後日の活用が重要になってくる。土曜講習も予定されているが、今自分が本当に立ち向かうべきことは何なのか、もう一度よく考えてみることである。逆に、この講習を利用して、先生に分からない部分を確かめるということも可能だろう。普段習っていない先生かも知れないが、だからこそ、質問しやすいと言ったことがあるかも知れないからだ。どちらにしろ、しっかり週末を生かすことが大切である。